

Global Nursing Education: グローバルな看護師の育成

2019年度に大手前大学に開設された国際看護学部で国際看護演習と実習を担当するために、准教授で着任しました。2010年より看護・助産教育に携わってきた者として、Global Nursing 領域で国際保健医療活動を通して積んできた経験を教育現場で活かしています。外国人患者のケアへの理解を始めとした異文化看護や看護師の英語コミュニケーションスキルを通して、グローバル活動ができる看護師の教育に取り組んでいます。

海外に移動せずに国際協力

2001年の秋より大阪大学人間科学部ボランティア人間科学講座で「日本の国際協力」という科目を担当しました。同時に日本国際協力機構（JICA）の医療分野課題別研修の講師になり、この21年間に保健医療人材育成活動を継続しています。一方、私は、日本という他の先



大手前大学国際看護学部
准教授

エレラ ルルデス
Lourdes R. Herrera

ペルー出身の助産師、広島大学保健学専攻博士。医療通訳等の外国人支援や日本の母子保健普及活動に取り組む。

進国と比べて外国人人口が少ない国で外国人として暮らすことになってから、医療施設でことばなどの問題に直面する外国人に共感しながら支援活動に参加しており、その活動についても紹介しています。

国際保健医療分野での活動に必要な条件

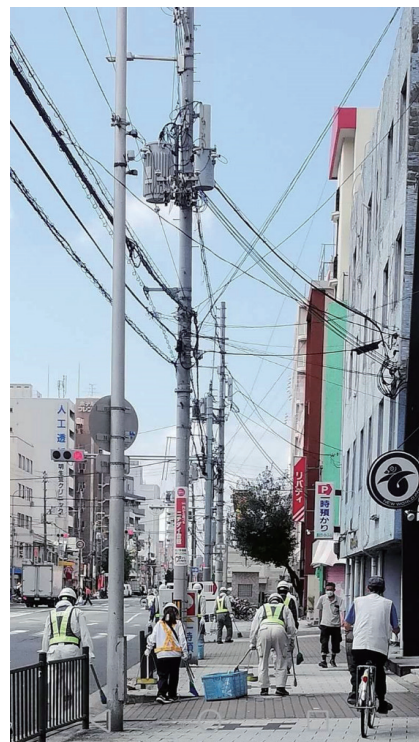
初めて担当した JICA コースの講習会では、ブラジル人助産師のための「人間的なお産」という研修でした。その後、イ

ンドネシア人医療従事者のための「母子保健改善」研修や、中東、アフリカの集団研修の「母子保健と新生児ケア」、「HIV/AIDS」、「保健人材開発」等で研修を担当し、数々の講義や医療施設見学の引率、アクションプラン作成の指導をしてきました。2021年度の JICA 課題研修別 Knowledge Co-Creation Program（知識共創）では、スペイン語圏の国々のための母子保健コースを、10月から1月にわたり、オンラインでサポートしました。

JICA の研修では、海外でも活用できる日本の知恵が重要とされています。日本の大学院で学修した日本の公衆衛生、母子保健や母子保健法、研究方法などの知識と、日本でのボランティア活動を通して培った経験と、母国のペルーで受けた助産教育と助産師としてのアイデンティティと実践があったからこそ、JICA 研修生のお役に立つことができたと思います。また、講師や引率教員としての必須条件は語学力です。この21年間では、担当したほとんどの研修プログラムは英語で行われ、ポルトガル語と母国語のスペイン語による研修もありました。また、研修生の母国語若しくは共通語である英語で講義や指導を行ったり、通訳したりすることもありました。さらに、日本に関する情報は日本語で検索し、研修の打ち合わせなどは日本語でのメール交換なども求められます。講師をしながら様々



大手前大学国際看護学部



大阪西成区釜ヶ崎支援機構で高齢者と共に清掃活動
大阪の多様性を学ぶ国際看護実習Ⅰ（1年生）



大阪検疫所で検疫所や検疫官看護師について学ぶ 防護服着脱体験の様子。
国際看護実習II (2年生)



Q3.男性看護師を目指している方へアドバイス
大阪府看護協会が主催する「看護の日・看護週間」2022年に参加 放映された男性看護教員への学生によるインタビュー (3年生)

な国から多くのことを学び、つながりの輪も大きくなりました。グローバル人材として活動するためには、日本に関する知識、異文化に対する理解、専門性(医療分野)と語学力・コミュニケーション能力が欠かせないと考えています。

在留外国人のための医療における支援活動

日本語は世界で最も習得が難しい言語です。日本語に対する在住外国人の意識に関する実態調査(文化庁、2013年)では、日本語が十分にできなくて、困り、嫌な思いをした場面の第一に挙げられたのは病院でした。外国語で対応できる医療従事者は、近年増えてきています。共通言語としては英語が中心で、医学部での医学英語教育は進んできていますが、看護学生の外国語教育は充実しているとはまだ言えません。

私はおよそ20年間医療通訳者として活動してきました。医療施設で通訳できる人が少なく、周りの外国人が困っていることが医療通訳活動のきっかけでした。自分自身の日本語に自信はありませんでしたが、医療に関する知識、医療用語の理解、日常会話や読み書きができるにつれて、依頼が増え始めました。実践しながら通訳の技術を学習し、日本語で

の医療用語、日本の医療制度などを常に勉強し、数年前からスペイン語の医療通訳者の研修でトレーナーもしています。医療通訳者が医療チームメンバーの一員としての活動することへの理解や、医療通訳者の役割や医療従事者と一緒に行う外国人患者のケアの在り方への理解を広めたいと思います。また、通訳者の言語能力以外に、異文化理解の能力、多様性の理解が必要であり、医療従事者とのコラボレーションも重要です。

大手前大学国際看護学部で学べること

グローバル人材になることを目指し、一年生より学生全員が国際看護概論を学習したのちに、国際看護学実習Iで、一週間を通して関西地方で在留外国人を支援するNPOや多様性を大切にする介護サービスの活動について学びます。二年生の国際看護学実習IIでは、JICAオフィスの訪問、検疫所での実習、優しい日本語の講習が行われます。三年生の国際看護学実習IIIでは学生全員が海外の医療施設や大学で一週間の実習をします。大手前大学国際看護学部では国際看護は必須科目であり、看護学生全員が履修し、体験型教育実施しています。一年生から三年生まで英語の必須科目を設けられて

いて、国際看護演習では、3年間にわたって、医学英語、看護英語、異文化コミュニケーションを学びます。また、四年生の統合実習では、国際看護領域を選択する学生は協定しているタイ国のチェンマイ大学病院で実習し、講義や演習を通してタイに関する文化、多様性や社会的背景などに触れ、人々を取り巻く環境と健康に影響を与える要因について学びます。

大手前大学は学術交流協定を結んだアデレード大学(オーストラリア) Joanna Briggs Institute (JBI) に所属しています。JBIは、看護学領域における「Evidence Based Healthcare」の実現を目指した国際的な機関です。2019年よりJBIのシステマティックレビュー研修を大手前大学で開催し、看護学のエビデンスの構築に必要な不可欠であるシステマティックレビューの指導は指導員から受けられます。

国際看護に関心のある人たちへのメッセージ

自分自身の能力や特技を活かしたグローバル看護師になって、どこにいても世のため、人のためにケアを提供してください。看護師全員がグローバル人材であり、看護やケアには国境がありません。